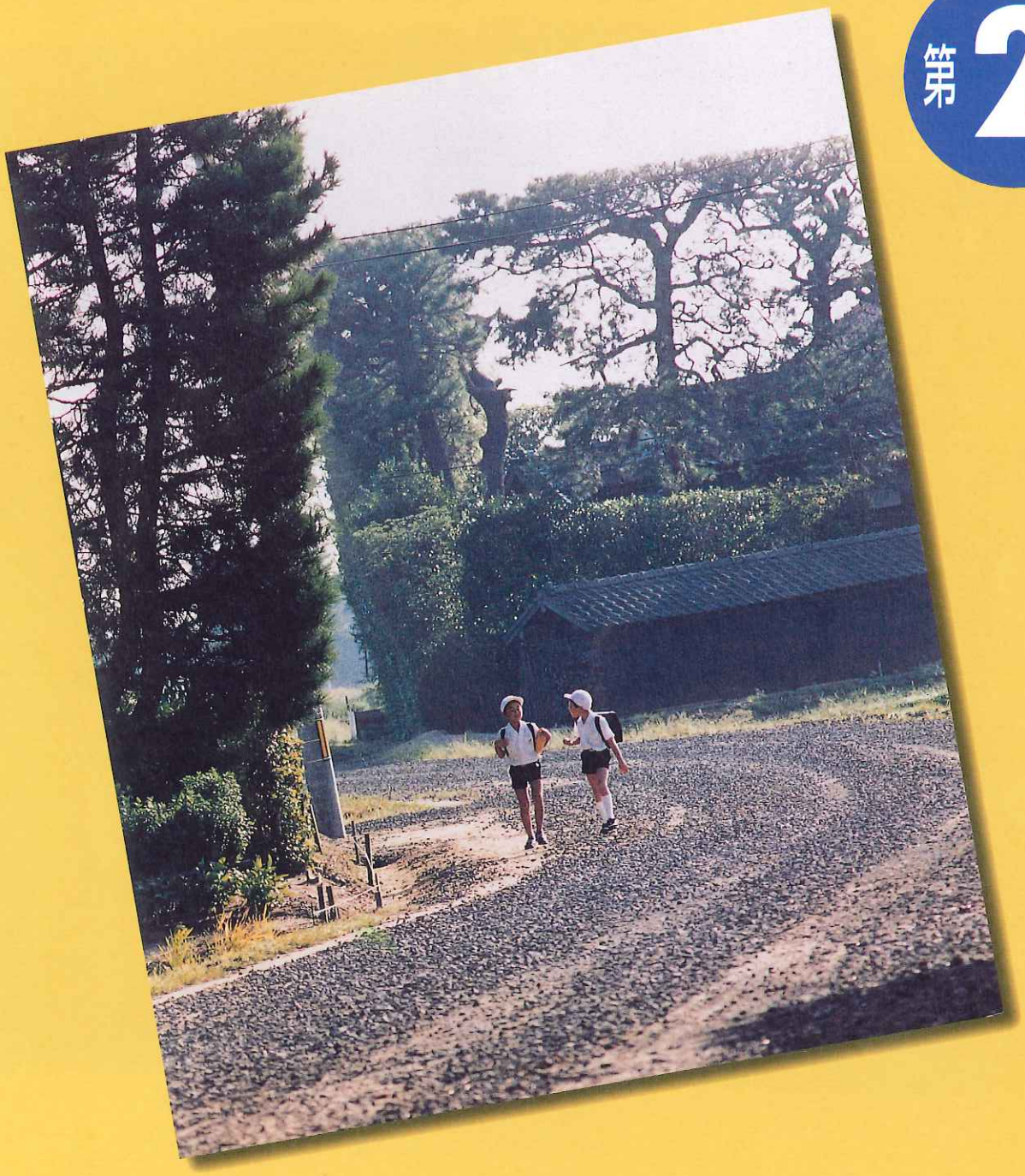
ついじまつ

COMMUNICATION

ついじまつコミュニケーション：築地松情報誌1996　発行―築地松景観保全対策推進協議会

第2号



築地松

やさしく、懐かしい、日本のふるさと

forever 物語

がここにあるから。

安らぎの城

旧暦の十月を出雲では神有月（かみありづき）という。全国の八百万（やおよろず）の神々が出雲に参集するからだ。何故この月、全国の神々はそれぞれの国から出ていくのか、何故、その神々が出雲の国に集まるのか、今のところ明快な答えはないようだが、それにしても、出雲は不思議なところである。神々は旧暦十月十日の夜、出雲大社の西の浜辺、稲佐の浜に上陸する。浜では厳かな神迎祭（かみむかえまつり）が行われ、龍蛇（りゅうじ）さんを先頭に、神官の持つ榊の枝に憑（よ）った八百万の神々は、出雲大社に向かう。神々はこの夜から、大社本殿両脇の細長い社殿、十九社（じゅうくしゃ）に宿をとる。翌日から会議が続くそうだ。途中、中休みがあり、二十日から会議を佐太（さだ）神社に移して、会議は続行される。出雲の人々は神さまの邪魔にならないよう、普請（ふしん）や歌舞音曲（おんぎょく）を慎むなど、ひたすら生活を規制する。これが、お忌（いみ）さんである。神々が出雲に滞在する半月間、各神社では神在祭（かみありまつり）が行われるが、これを別名お忌祭ともいうのである。お忌さんの頃、日本海はきまって荒れ模様となり、出雲平野に冷たい北西の季節風が吹き始める。そして、アラレ混じりの時雨（しぐれ）が、風にのって横なぐりに吹きつける。これをお忌荒れという。出雲の人々にとって、この荒れがなければ、神々が来たという実感がわかないのである。もっとも、神々がそれぞれの国に帰っても、この季節風は翌年二月ごろまで吹き続ける。私が小学生だったころ、というと今から五十余年前のことだが、黒いマントに帽覆（ぼうおお）い（フード）をかぶり、身体をかがめて風雪を避（よ）けながら登下校したものだ。だが、築地松のわが家の庭先に帰ると、ウソのように風はやむのである。コタツにでもはいればもう天国、ゴウゴウと築地松を鳴らす風の音も、子守歌のように心地よく響く。築地松は強風や大水のような自然の力から家屋を守るだけではなかった。築地と松によって結界地が形成され、築地松の中は外界と遮断された独立の世界であり、安らぎの城であった。タムギ掘り（高畦掘り）のようなきつい労働で疲れきった身体も、築地松のわが家に帰れば心地よく癒された。地主の地代攻勢に悩んでも、築地松に帰れば忘れることができた。築地松の中の暮しは、出雲平野の人々にとって、本当に心の安らぐ場所であった。

文　藤岡大拙

「斐川平野の夜明け」松江市　曳野英行　※斐川町島村灘橋にて

TOWN INFORMATION [タウンインフォメーション]

第1回
斐川町
Hikawa

「全国散居村サミット」開催

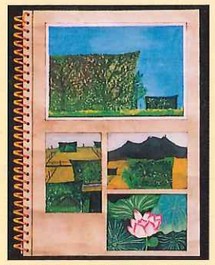
第3回全国散居村サミット(H8.8.1.斐川町)

斐伊川下流に広がる斐川平野の田園地帯には、築地松に囲まれた民家が点々と散らばり、美しい風景をつくりだしています。
このような風景を「散居風景」と呼びますが、全国にも斐川町と同じように美しい散居地域を有する自治体がたくさんあり、景観保全に取り組んでいます。
その中でも代表的な散居地域がある４つの自治体、島根県斐川町・岩手県胆沢町・静岡県大井川町・富山県砺波市が集まり、平成6年から『全国散居村サミット』を開催しています。このサミットでは、「散居」であるが故の共通課題についての情報交換や美しいふるさとの散居風景を守り続けていくことを話し合い、それぞれのまちづくりに活かしていこうと考えています。

斐川町の美しい散居風景が永遠に続くためには、築地松はなくてはならないものです。そこで、斐川町では松くい虫の被害などにより松が減りつつある中、苗木の無料配付を行うなど、町と町民が一体となって築地松を守り育てていこうと努力しています。
…長い歴史の中で生まれ、先人たちからの貴重な贈り物である築地松
私たちの手で守り、後世に伝えていくことが一番大切なのではないでしょうか…

子どもたちの目から見た斐川町の築地松風景は…

築地松絵画コンクール


特別賞（斐川町観光協会会長賞）
斐川西中3年　大田真理子

築地松の素晴らしさを絵を描くことを通して再認識し、ふるさとの自然を愛する心を育んでもらおうと、町と町内の３つの郵便局が中心となり、『築地松絵画コンクール』を行っています。
３回目を迎えた今年も、町内の小・中学生から1,366点の多彩な作品の応募がありました。
また、作品の展示を通して、多くの方に築地松の素晴らしさ・大切さを認識してもらいました。

ふるさと斐川フォトウォッチング
～自分の好きな斐川町の風景をカメラで撮ろう～

町内の小学校５年生の子どもたちに夏休みの間に、簡易カメラで自分の好きな斐川町の風景を写真に撮ってもらいます。そして、その写真を１枚の画用紙に自由にレイアウトし、それぞれが自分の目からみた斐川町の風景を表現してくれました。
今年は313点の応募作品がありましたが、築地松をテーマにした作品が多くみられ、子どもたちにとっても、やはり築地松は斐川町の大切な風景であるようです。

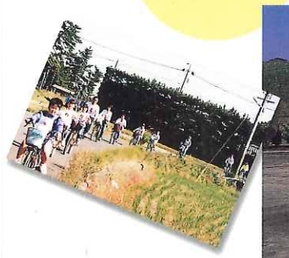
出東小5年　井上教美

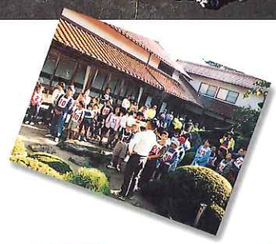
築地松サイクリング'96
～感じてみませんか！築地松の風～

お疲れさまでした。

秋晴れのもと315人が参加！
10月13日㈰出雲市川跡河川公園

築地松景観保全対策推進協議会では、サイクリングを通じて「築地松景観」への関心と、この美しい景観の保全を皆さんと共に考えようと、この築地松サイクリング'96を開催しました。当日は築地松を吹き抜けるさわやかな風の中、出雲市、平田市、斐川町、大社町の各地点からスタートしました。途中、築地松を大事に守り育てておられるお宅では、説明を受け、見学させて頂きました。その後、川跡河川公園に集合し、会場ではクイズ大会や参加者全員で記念撮影の後、おいしい味噌汁とおにぎりで和やかなひとときを過ごしました。





“92歳の中村さんは自転車歴80年のベテランだった”
出雲市から参加の中村忠義さん(92歳)

私は、普段からいろいろなサイクリングに参加していますが、特に地元の大津地区のサイクリングには毎回休まず参加しています。築地松サイクリング当日、集合場所の出雲ドームについたところ、私が一番乗りでしたのでびっくりしました。幸いお天気も良く、たくさんの参加者の方たちと一緒にペダルをこいだり、イベント会場でのクイズなど、本当に楽しい一日でした。これからもこんな催し物があれば、また参加したいと思っています。今回、この催しに参加したことがきっかけで、所用で平田市や斐川町を通ると自然と築地松に目を向けるようになりました。

～サイクリングコース～
[斐川町出発班]：久木健康広場→岡邸見学→河川公園
[出雲市出発班]：出雲ドーム→足立邸/佐野邸見学→河川公園
[平田市出発班]：市立文化館→児玉邸見学→河川公園
[大社町出発班]：大社町役場→周藤邸見学→河川公園

築地松サイクリングに参加しました。

初めて近くでついじまつをみれてよかったです。 門脇由

あんなにたくさんの時間、自転車にのったことなかったので、たくさんのれて、よかったです。 高木福美

ついじまつが100年ぐらい続いてびっくりしました。 園山三少織

日御碕小学校

ちょっとつかれたけどたのしかったです 野津恵理香

いつもとちがう道を通って少しつかれたけどたのしかったです。 中田綾

築地松を近くで見て大きくてよくこんな大きいまつを育てるなと思いました。 糸賀舞

TSUIJIMATSU RESCUETEAM

『僕たちは、築地松を守る正義のみかた。今回からシリーズで築地松の大敵、松くい虫をやっつける方法を専門家の方に教えてもらいます。

松くい虫を防除する(1)

「松くい虫」とは

マツが萎れて枯れる萎凋病で、正しくは「マツ材線虫病」と呼びます。この病気はマツノザイセンチュウという体長が１ミリも満たない線虫によって起こります。そしてこの線虫はカミキリムシの1種「マツノマダラカミキリ」によって健全なマツに運ばれ広がる伝染病です。ですから松くい虫によって枯死したマツを放置しておくと、それらが伝染源となって周辺に新たな松くい虫の被害が広がっていきます。

駆　除

松くい虫の防除には「駆除」と「予防」があります。駆除は、枯死したマツの樹皮下や材内にいるマツノマダラカミキリの幼虫を駆除して5～7月に脱出する成虫の密度を下げ、被害の発生を防ぐものです。その方法は松くい虫で枯れたマツを伐倒し、枝払いをして適当な長さに玉切りします。駆除には焼却、くん蒸、薬剤散布などがあります。

1．焼却

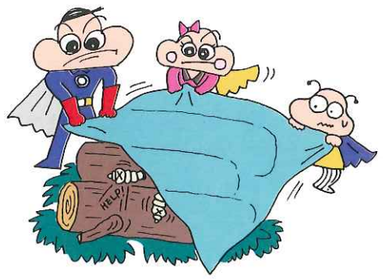
玉切りした丸太と集めた枝を空地などで焼却します。火災が発生しないように火の始末には注意しましょう。丸太は完全に焼却する必要はありませんが、カミキリ幼虫は材部へ深さ3～4㎝の孔道を掘るので、これらを完全に熱によって殺虫できるように丸太は十分に炭化させる必要があります。また、薪として活用するのも良い方法ですが、カミキリの成虫が脱出を始める前の5月中旬までに、必ず燃やしておく必要があります。

2．くん蒸

くん蒸剤で丸太、枝をくん蒸し、カミキリ幼虫を駆除します。丸太、枝を集積してその上からくん蒸剤を散布し、ただちにポリエチレンシートで覆い、裾は土ですき間ができないようふさぎ密封します。穴があいた場合はガムテープなどでふさぎ、1～2週間以上覆っておきます。使用するくん蒸剤にはカーバム剤(NCS)、カーバムナトリウム塩(キルパー)の原液を0.5～1ℓ/㎥(シート内の容積)があります。

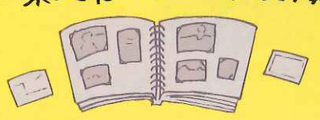
3．薬剤散布

丸太と集めた枝に殺虫剤を丸太表面積1㎡当り400～600cc散布します。その量は丸太、枝から薬剤がしたたり落ちる程度です。太さ2㎝以上の枝には多くのカミキリ幼虫が寄生するので、忘れずに薬剤を散布してください。また、薬剤には「乳剤」と「油剤」があります。油剤は乳剤に比べて樹皮下への浸透性はよいのですが、いずれの薬剤もカミキリ幼虫が材内に穿孔する前の10月までの散布が望ましい。なお、油剤を使用するときには火気に注意しましょう。伐倒木の駆除用散布薬剤には、MEP乳剤ースミパイン乳剤の50～150倍。MEP油剤ーパークサイドFの原液。などがあります。薬剤を使用する場合は、その使用基準を遵守し、適正に施用してください。



♪築地松伝言板♪

◎築地松の昔の写真をお貸し下さい!!



◎好評につき築地松サイクリングを来年も実施予定!!

この頁に関するお問い合わせは、島根県庁景観自然課内築地松景観保全対策推進協議会事務局 TEL0852-22-6143・FAX0852-26-2142 までお寄せ下さい

築地松景観保全対策推進協議会とは、

出雲平野に点在する「築地松」は、四季折々に美しい景観を見せています。しかし、近年、「築地松」は松くい虫被害や生活様式の変化により減ってきています。そこで、平成６年５月に島根県、出雲市、平田市、斐川町、大社町及び住民代表を構成員として「築地松散居景観」を保全するため築地松景観保全対策推進協議会を発足させました。協議会では広報誌、イベントなどを通して広く普及啓発を図るとともに築地松の維持管理費の助成などの保全対策事業を展開しています。

保全の輪を広げよう。

Q：築地松景観保全住民協定とは？

A：築地松の美しさは、築地松そのものだけではありません。田んぼの真ん中に築地松が点在する遠景も美しいのです。そんな出雲平野の原風景を私たちは大切にしていきたいと思います。そのためには築地松所有者の方だけでなくその周辺住民も含め全員で築地松景観を守る努力が大切です。このような考え方から築地松景観保全対策推進協議会では、一定の区域を設定した全員参加による住民協定の締結を促進し、全国に誇れる築地松景観を守っていきたいと考えています。なお、住民協定については、詳しいパンフレットがありますのでお問い合わせください。

『出雲平野には築地松がよく似合う』

玉木徳美さん(平田市)インタビュー

私はもともと松が大好きで、庭に植えたり自分で管理したりしていますが、近年の松くい虫の被害は深刻に受け止めています。もう少し防除などのよい方法が出来て被害が少なくなれば…と思います。我が家に築地松はありませんが、この地域の築地松を皆さんと一緒に保全していきたいという気持ちで私も協定に参加しました。最近は半分雑木の生け垣を多く見かけますが、やはり築地には松が一番だと思います。「築地松」は、出雲地方を代表する風物だと言えます。

活動のバックアップ

Q：保全のための助成制度は？

A：築地松景観保全住民協定を締結された方が、築地松の剪定や防除をされた場合に、その経費の半分を助成するものです(限度額1戸あたり10万円で4年に1回)。築地松を維持していくためには、害虫防除はもちろん「陰手刈り」と呼ばれる3～4年に1回の剪定作業が必要で経済的な負担となっています。協議会では、助成制度を通してこれらの経費を軽減することで、築地松を次の世代に残していくお手伝いが出来ればと考えています。築地松は単に個人の所有物ではなく、出雲平野の景観の核をなす、いわば公共財産ともいえます。

『築地松は出雲人の“粋”である』

岡田達文さん(平田市)インタビュー

私は若いころから酪農のかたわら、多くの築地松を見てきました。我が家の築地松の一部は、数年前、松くい虫の被害により切らざるを得なくなってしまいました。いざなくなってみると、ものすごく大切なものをなくしてしまったように感じます。松を切ってみて初めて分かったのですが、昔から「築地松」というのは、私たち出雲平野で暮らすものにとっての“誇り”であり“粋”であるような気がします。築地松を維持するにはお金にも心にもゆとりが必要であり、そのための手助けとして助成金制度の活用は良い事だと思います。我が家の残りの築地松は「出雲人の粋」として大事に守り育てていこうと思います。

「八雲立つ出雲」　島根県立看護短期大学所蔵

板倉幸昌　洋画家

日展会友。東光会審査員。島根県展審査員。出雲市美術展審査員。山陰中央新報社文化教室講師。東光展入選、その後、連続入選。東光会会員推挙、日展会友推挙、東光会審査員推挙、築地松や出雲地方の自然をモチーフに数多くの作品を描く。

ついじまつCOMMUNICATION

風のたよりに

昭和36年に初めて山陰本線から出雲平野を見ましたが、築地松の美しさが強く印象に残っています。もともと築地松は生活の知恵から生まれたものですが、すでに出雲平野独特の文化となっています。ただ古いからいいというのではなく、日常的に今に生きていることに訴えるものがあります。実際に築地松をお持ちのご家庭では維持管理にご苦労をなさっているそうですが、築地松は県全体の財産であり文化でもあるのですから、個人だけでなく皆さんで守りそして後世に伝えていただきたいと思います。そうすることがまちの魅力にもなりますし、活性化にもつながると思います。

北野　大（きたのまさる）
淑徳大学国際コミュニケーション学部教授。みずほ台図書館長。工学博士。大学での研究活動のかたわら、TBS日曜朝放送「関口宏のサンデーモーニング」のレギュラーコメンテーターとして幅広い活動を展開。各地での講演も多い。

築地松景観保全対策推進協議会

島根県環境生活部景観自然課	〒690	松江市殿町1番地	電話0852-22-6143
島根県出雲総務事務所	〒693	出雲市大津町1139	電話0853-23-1515
出雲市建設部建築課	〒693	出雲市今市町109-1	電話0853-21-2211
平田市建設経済部農山漁村課	〒691	平田市平田町951-1	電話0853-63-3111
斐川町企画財政課	〒699-05	斐川町大字荘原町2172	電話0853-73-9211
大社町企画課	〒699-07	大社町大字杵築南1395	電話0853-53-3112

表紙写真撮影「朝」江角隆明（斐川町）